

「日本初、最先端の技術実証」を一層加速化するため

# 「仙北市特区」を規制のサンドボックス第1号に！



第32回 国家戦略特区諮問会議



仙北市長 門脇 光浩

# 仙北市における「最先端の技術実証」

## ①電波法の特例による 日本初の国際ドローン競技会

**日本初!**

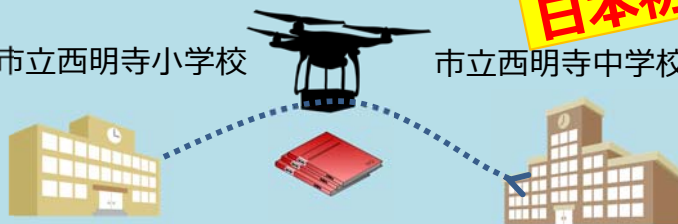


- 実施日 平成28年7月
- 出場国 中国、韓国、ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシア、日本

## ②ドローンによる図書配送実験

**日本初!**

市立西明寺小学校      市立西明寺中学校



- 実施日 平成28年4月
- 概要 学校図書3冊を積載したドローンが、学校間約1.2kmの距離を自律飛行。

## ③公道における無人運転バス実証実験 (レベル4)

**日本初!**



- 実施日 平成28年11月
- 概要 田沢湖畔の県道にて無人運転バスの実証実験を実施。試乗者は63名。

## ④自動運転実証実験 (レベル3)

- 実施日 平成29年9月～11月  
実験日57日間 (内公道9日間)
- 概要 公道にてレベル3の実証実験を実施。



### 自動走行

### 現 状

### 無人航空機の自動飛行



申請等

説明

届出等

実証実験者  
民間企業  
自治体

連絡

申請

土地所有者



市民

行政

警察

国土交通省



承認事項 (航空法)

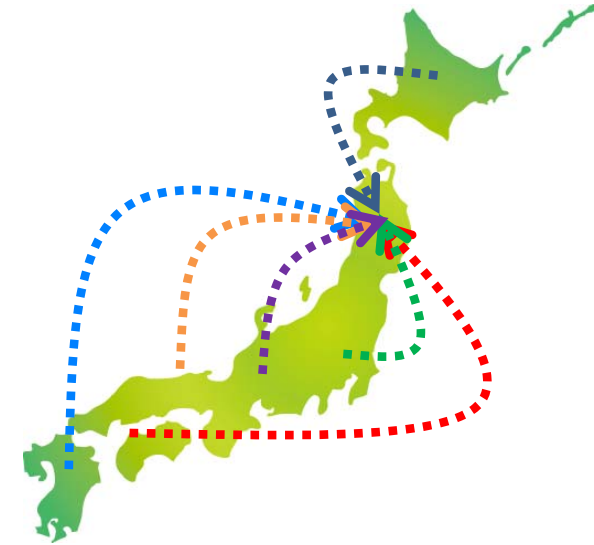
- ・夜間、目視外、イベント上空、危険物輸送、物件投下等
- ・原則、第三者上空の飛行禁止

**調整等に時間を要する  
各種申請等が多方面**

○これまで行ってきた実証は、他の地域ではできなかった「『日本初』の最先端の技術実証」  
**「規制の特例措置」を伴う「国家戦略特区」**でしかできなかったこと

「仙北市特区」は、過疎地であっても「最先端の実証」を  
やり続け、「**近未来技術のトップランナー**」であり続けたい！

- ・「多様な主体(事業者)」の呼び込み
- ・「長い期間」、「多くの地域」、「高い頻度」  
「天候等の多様な条件下」 etc



様々なパターンの「最先端の実証」を行っていく必要がある

### <ポイント>

- ① 「国と自治体が一体」となったスピーディな事業計画づくり  
(区域会議の最大のメリットを活用)
- ② 個々の実証事業の一つ一つに対し、規制当局の許認可を受けない形へ



「道路交通法」 「道路運送車両法」 「航空法」 「電波法」 など

「仙北市特区」を  
事前規制をできるだけ不要とする  
**「規制のフリーゾーン」**に

仙北市特区を、「規制のサンドボックス」第1号に！